

平成28年度 綾瀬市立綾西小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	学校経営の方針	
進んで学ぶ子 (知) 思いやりのある子 (徳) じょうぶな子 (体) ねばり強い子 (意)	○児童一人ひとりの個性や人格を尊重し、豊かな自己実現を図ることを目指す。 ○児童の個に応じた多様な指導方法の改善に努める。 ○児童一人ひとりが落ち着いて生活できる教育環境の整備に努める。 ○人権尊重を基盤にした児童理解といじめのない明るい学校づくりに努める。 ○家庭・地域と連携し、地域に開かれた学校づくりに努める。 ○社会の変化に対応できる教師を目指し、常に自己研鑽に努める。	
今年度の重点目標		
・ 広く豊かな心の育成 (広い視野、思いやり、温かさ) ・ 基礎基本の習得と活用、探究力の育成		
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、進んで学ぶ子を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	校内研究を中心に授業改善に取り組んできた成果として、9割近くの児童が「進んで学習している」と回答しています。今年度作成・活用してきた「話す」「聴く」モデルをさらに継続して取り組み、児童同士が考えをつなげていく授業を目指していきます。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動にねばり強く取り組んでいる。	運動会や児童会活動等、児童が主体的に活動できるように指導した成果として、9割以上の児童・保護者が「学校行事等に対して楽しみでがんばって取り組んだ」と回答しています。今後も児童が「めあて」をもち、意欲的に取り組み、達成感が味わえるように指導していきます。
3 児童・生徒指導	学校は、思いやりのある子を育てる指導を積極的に行っている。	児童会での取り組みを中心に「あいさつ運動」を積極的に進めてきた成果として、児童・保護者とも9割以上が「進んであいさつをして仲よくしている」と回答しています。また、地域の方からも、気持ちの良いあいさつをする児童が増えてきたという感想もいただくことができました。今後もあいさつだけでなく、何事にもていねいに行うことを重点に「思いやりのある子」を育てていきます。
4 児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	長い昼休みでの、クラス遊びや縦割り活動を通して、多くの友だちと交流してきた成果として、9割以上の児童が「友だちと学校生活を楽しんでいる」と回答しています。また、今年度「スクールアンケート」に「友だちの良い行動を見つける」欄を加えたことも、人間関係を築くうえで効果的でした。今後も児童同士が触れ合う活動を重視し、すべての児童にとって楽しいと思える学校を目指します。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	3割以上の保護者が「分からない」と回答しています。いじめ防止対策推進委員会の存在や取り組みについて「学校だより」等を通して積極的に知らせていく必要があります。また、授業参観等で道徳の授業を積極的に公開し、「思いやりの心」の育成に取り組んでいる様子を知らせていきます。

6 保健管理	学校は、じょうぶな子を育てる指導を積極的に取り組んでいる。	児童会が計画している「にこにこかつどう」や体育委員会が行っている「体育委員会にドッジボールに挑戦」などにより、運動することに対して「めあて」をもち楽しく活動する取り組みの成果として、9割以上の児童が、「学校で元気に過ごしている」と回答しています。また、計測時の養護教諭からの指導も時期的にタイムリーな内容を実施した結果、児童に健康づくりに関する内容を意識して生活できるようになってきています。今後も、児童の主体的な活動と、教師からの指導を活かして、「じょうぶな子」の育成に取り組んでいきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	児童指導では、「火災や地震を想定した避難訓練」「不審者対応の避難訓練」「緊急時の下校指導訓練」「引渡訓練」「交通安全訓練」「あんしん教室」等を実施して、危機管理の意識を養うようにしています。職員による登校・下校指導を定期的に行い、登下校時の事件・事故に備えて、職員が分担して見回り態勢を作っています。今後、さらに登下校時における安全の徹底を、PTAや地域と連携を図り取り組んでいきます。
8 支援教育	学校は児童に応じた支援の工夫をしている。	個別に支援が必要な児童には、保護者の要望をもとにして保護者・学校・専門機関相談員との協議を速やかに行い、一人ひとりに応じた教育環境を整えることに努めています。今後も、教育相談コーディネーターと教頭が窓口となり、学力向上推進支援者及び学習支援者と担任との連携のもと、支援が必要な児童に適切な学習支援が実施できるようにしていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	学校教育目標を具現化するために、4月初めに校長が明確に方針を打ち出し、運営組織の充実を図ってきました。その方針を受けて、「年間計画」を作成し、取り組んできました。年度末には「年間の振り返り」をまとめ、冊子にして配付し、次年度の計画を立てていきます。今後とも、学校経営方針の重点を意識し、各グループが連携しながら、効率的で活発な運営が機能するように取り組んでいきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	校内研究を中心に、「話す・聴く・つなぐ」を意識した授業を目指し、「子どもの心が動く授業づくり」を目指していきます。また、他校への研究発表大会にも積極的に参加し、そこで得た情報を全職員で共有し、授業力を高めていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童・生徒の成長のための工夫をしている。	子ども達のよりよい成長のために、月に1回開かれる児童指導委員会で、全職員で見守っていく必要のある児童の情報や変化の様子を確認し、今後の関わり方などを共通理解しました。今後も問題行動の状況把握・報告・協議・関係機関への連絡・対応など迅速に行い、早期解決を図るようにしていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	本校では、学区内の各施設やボランティア団体との連携を図り、教育活動に大きな支援をいただいています。今後も、「学校便り」「学年便り」「学級だより」等を通して、教育活動の実践を伝えていきます。また、学校ボランティアとの連携を図るとともに、子ども達のをよりよく育ていくために、保護者・地域の方々・外部団体と意見を交えながら、協働していきます。
<p><b>【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの視点に立った授業改善に取り組まれていることは評価できる。</li> <li>・縦割りの交流活動は、友だちとの関わり、異学年の人間関係を学ぶ機会や学校教育目標に向けた教育活動として大変良い取り組みであり、今後も続けてほしい。</li> <li>・いじめ防止対策推進委員会を中心とした学校組織全体でのいじめの早期発見・再発防止に対する学校の取り組みなど、もっと保護者に周知できるとよい。ホームページの検討もしてほしい。</li> </ul> <p>・携帯電話やスマートフォンの普及により、小学校の早い段階から情報モラルの指導が必要である。また、学校だよりでサイバー犯罪の防止や正しい使い方、ルールづくりなど、保護者への啓発が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の項目に対して、「そう思う」と自信を持って回答できるように、日々取り組んでほしい。</li> </ul>		